

平和を願い響き合う

第67回関西平和美術展



7月31日～8月5日67回関西平和美術展-大阪市立美術館-

荒れ狂う自然災害と国民不在の政治。地球温暖化による異常気象なら、これも人間の責任です。第67回関西平和美術展は、このような状況で開催されました。台風により搬入・展示に影響を受けましたが、ほぼ例年通りの出品者数が維持できました。準備から開催直前まで、いろいろな困難がありました。実行委員と事務局員のきめ細かい努力と対応の成果です。改めて敬意を表します。

第67回展を終えて

実行委員長

坪井 功次

今年も多彩な作品が集まりました。直接的に平和への想いを表現した作品、日常生活や風景に想いを託した作品など様々に、それらが共鳴して会場全体で「平和のために」と云うひとつの作品を創り上げたように思います。

今回、もっとも心に残った作品がありました。抑揚のきいた色彩と筆触で描かれた篠瀬和行さんの「親父1」「親父2」です。街角で出会った人物だと聞きましたが、作者の胸中にある何かが心を捉えたのでしょう。一步違えば嫌悪感のみが残りますが、作者の持つヒューマンな思慮深さと優しさが、モデルの人生や社会背景にまで思いをめぐらせる。確かな技術と愛情で現実を描いた時に、理屈や説明でなく人の心に響く。永らく、彼のこういう作品を待っていた。平美展でこそ出来る自由な創作に加え、このような作品がならぶことで展覧会に広がりを感じました。

(自作への自戒と羨望をこめて)

見応えがありました

会場アンケートから ☆初めて

●日々それぞれの美術にまつづくに向き合い努力されているのが羨ましいです。また、平和を祈り筆をとることの素晴らしさを感じました。60代女●小品が多くなつたと思われませんが、新しい自分の作品表現を追求しています。一点一点がたいへん見ごたえがあります。70代男●多くの作品に出合いました。若い人々に見てほしいですね。60代女●さまざまな作品があり楽しませて頂き、手作り汽車に感動。もっと広めたいのにな。何か作ってみようと思える美術展でした。60代女

大奮闘の実行委員会

事務局長 山田泰子

この夏は猛暑が続き、テレビからは外出を控えるよう毎日テレビが流す中、1900人近い方が観に来てくださいました。ありがとうございました。

3月に実行委員会を立ち上げ6回の実行委員会と3回の事務局会議を経て展覧会を迎えます。今年は実行委員長が仕事のため会議を欠席しがちで、進行のまずさから予定通り議事がこなせず、何とか役割分担など決め会期を迎えました。

ところが台風が搬入日に大阪を通過する、というところで対策を相談し美術館とも何度も連絡を取りました。搬入日を展示の日にするこ

とに決め、手分けして出品者に連絡しました。大宝運輸への連絡が遅れ予定通り搬入されることが判明、連絡漏れも考え美術館で待機しました。月曜日の搬入に來られないという人には前日に預かる措置をとり、出品予定全ての作品が展示できるようにしました。

決めてきた搬入展示の役割分担は変更しなくてはならず相談もせず変えました。搬入された作品は出品者に決められた壁面に運んでもらい展示委員長が確認してから展示をしたので全体にバランスの取れた会場になりました。多くの出品者を手伝って頂きありがとうございました。今年の出品者は213人・282点(内初出品者17人・23点)



2018年10月

第27号

関西美術家平和会議

広報部発行

■事務局/〒530-0054

大阪市北区南森町2-2-14

TEL 080-8516-7205

FAX 06-6311-1238

御暑澄潭月

書 辻野 香堂

初めて作品を出品する気持ちになったのは、お習字の稽古を重ね、先生からも背中を押していただきチャレンジしてみようと思ったからです。真夏の暑い時でも月は澄んで美しいという作品は、平和な日常が続くことを願って書きました。

アンナブルナ

油彩画 天野 みどり

今回、辻岡さんの勧めで初めて出品致しました。

作品は、一昨年ネパールに行ったとき、ホテルテラスから眺めたアンナブルナの山脈です。震災後のカトマンズは復興が遅れていま

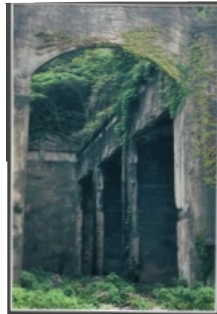


して、早期復興の祈りを込めて山裾に春の訪れを描きました。日本やネパールでも天災で避難生活を余儀なくされている方々が多くおられますが、人を慈しみ大切にする国作りが急務です。

毒ガス貯蔵庫跡(大久野島)

写真 亀井 勝正

昨年も出展しないかと言われたが出展料が高いと断念。しかし「平和美術展」が鑑賞者の皆さんに「平和」



について何かを感じてもらえればと思い、たまたま5月に訪れた大久野島で撮った写真が良いと思い、出展しました。来館者はいつも延べ2000人ぐらいなので出展料は高くなく半分納得です。

わたしのテーブル

水彩画 林 和代

水彩画教室に友と20年。先生の指導と励ましを受け初出品できましたことを嬉しく思います。

今回の題材は身近な野菜

わくわくドキドキ
初めて出品！

出品作品は関西平和美術展の
ホームページで紹介しています。



たち、愛着がありますが、何とか仕上げた感があります。今後、平和を願う方々

が長年交流されてきた美術展に出品できればと思っているところです。

平和な日

油彩画 窪田 紀子

何でもない日常のシーンに平和があるのではないかと思います。ピエロの



遠くを見る優しいまなざしの向こうを指して飛行機もとんでいる。きつと向こうに希望がある、夢がある、そんなことを思いながら描きました。

おばあちゃんのはたけ

油彩画 野村 芳美

油絵は定年後の趣味で我流です。初出品の絵は、私の畑で苺狩りと玉葱、えんどう豆の収穫をした日の孫たちです。いろんな収穫に喜んでくれ、畑作りの励みとなっています。絵はいざ展示されるとその小ささに

出品してよかった

初出品者に実施したアンケートハガキに寄せられた声や感想を抜粋し紹介します

◇参加者交流会はいが、コメントするほうも難しいでしょう。◇半紙に一日何十枚と書いて。日本文化はいいぞ。◇審査がなく誰でも出展できると聞き気楽な感じで出品したら力作ぞろいでした。油絵、水彩画、墨絵、ちぎり絵などさまざまな表現方法の違いがとても参考になり、上達へ精進したい。◇他会に比較して雰囲気が出る。◇懇親会へ娘も一緒に参加して、感動！。◇高齢ですが長年絵画にたずさわりの人の中にぜひ観ていただきたいかったです。◇観ているだけで踏ん切りがつかなかったが出品者に誘われた。今が出し時と書いた。次回も妻も誘う。◇暑い時期体力的に厳しい。

秋に寄せて

水彩画 吉田 朋子

夏の勤労者学校で大山へ一泊旅行に行った際、スクッチのチームに参加。そのとき手ほどきして頂いた先生が平美に出品してみても？と声をかけて下さった。「秋に寄せて」他2点の作品を自分の腕のなさも省みないで出展しました。



い、画面構成。同じキャンバスなのに3Dで絵の奥まで引き込まれる作品に感動です。表現の自由と奥深さを教えられました。来年もリベンジしたいです。



今年も出品しました

平和大好き

じやりんご長屋

油彩 山中 孝夫

なにげない日常、洗濯をしたり、掃除をしたり、美味しく食べて、飲んで、絵を描いたり、歌ったり。日本では当たり前でも地震、水害、戦争になったら、すべて日常がなくなってしまう。

私は下町の日常を絵に託して、あたりまえの日常生活の中に感謝と感動があると思っています。2018年は「じやりんご長屋」を出品しました。地上げ屋が私たち長屋住民を追い出そ



うとし、あの手この手で攻めて来ています。のんびりゆっくり過ごしてる長屋住民に突然、爆弾が投げ込まれたように平和が乱されています。団結して闘っています。ましてや戦争になれば大変です。

今、安倍政権は自民、公明、維新が国会で組んで平和憲法9条をつぶして戦争できる国にしようとしています。戦争は人間性をなくします。「平和の壁に花一輪」を合言葉に力合わせて平和を守りましょう



小刀根トンネルの秋
ちぎり絵 奥山 慎智乃

須恵器タンプラー

陶芸 西念 秋夫



んからは、須恵器は難しい焼物、がんばりやと声をかけていただいた。そのおかげで、今年の堺市古里納税に、須恵器タンプラーが選ばれた。

ミモザも輝いて

絵手紙 中村 千恵子

私が絵手紙を出展するようになって10年近くなりました。始めは展示の仕方にもく知らず、実行委員の柝尾惇さんに助けていただきました。毎年出すことで進歩したように感じます。そし



「男」「女」「子ども」の終戦直前の写真（アメリカ兵撮

日本の伝統工芸和紙職人の方々が、作り上げた貴重な和紙を絵具代わりに、和紙絵を楽しんでいます。今回6回目の参加です。

作品は亡き父の故郷、北陸本線が活躍していた刀根地方の廃線跡のトンネルから見た秋の風景です。想い

て懇親会に初めて参加された初出展の方が、このようないい場所でのびのびと自由にやらせてもらえるこのような展示会はないと絶賛されたのを聞いて本当にそうだなと思いました。沢山の発表の場になり、観て楽しんで頂けるこの平和美術展発展させたいです。

はじめての沖縄1

油彩 瀬藤 あや乃

沖縄を描いた『海を歩く』は5年前です。昨年2作品目『はじめての沖縄』で

出いっばい、でも作品にするのは難しかったです。やっとの事で出来上がりました。平美展のおかげで、また一枚の和紙絵が増えました。ほんとにありがとうございます。今の平和がいつまでも続きますように心より願っております。

影）海に潜る「おじい」も見ました。

海の色、降り注ぐ陽の光りも描きたいと思っていました。今年春、戦後24年間沖縄ニシムイ美術村で描かれた絵を観てきました（東京板橋区）。安次嶺金正の『侘宅』風景画の遠近法がぶつ飛ぶような樹々に囲まれた「家」の絵でした。沖縄で描いた藤田嗣治の老女は怒っていました。



出品の想い語り合い歓談

第67回平美展出品者懇親会



8月5日 楓林閣にて歓談中のテーブル席から(右端 筆者)

恒例の出品者懇親会は8月5日平美展終了後、午後5時半頃から阿倍野の楓林閣で37名が参加して行われました。いつものように中田進さんの名司会で始まり、乾杯の音頭は松原成光さん

が行いました。山田泰子事務局長や松下ふみ代さんの展覧会事務報告のあと、参加者から平美展に出品してのそれぞれの想いが熱く語られました。

いつも面白い話で会場を沸かせる松原さんが、この日は1冊の「これではお先真つ暗」(中田進さんら共著)の本を掲げ、真剣に安倍政権のやり方に怒りを込めた話で会場の共感をよびました。

このほか奈良から初出品の陶芸家久田功さんの日本で初めての陶芸の創作秘話などもあり、最後に坪井功次実行委員長の話でしめくりました。(本松進一)

今年も皆様のカンパで原水爆禁止世界大会(広島)へ代表を送りました。ありがとうございました。平美展開催前の忙しい時期でしたが、昨年に続き「平和学習会」を開き、原水協から

「核のない世界」に向って ヒバクシャ国際署名を まわりの人々に

講師を招いて世界の平和への大きな動きなどを学びました。昨年、国連で採択された核兵器禁止条約の批准国は7月末時点で14か国になりました。残念ながら被爆国の日本はこの条約に背

この夏、ホームページ作成の過程で出品作品や会場風景を写真に収めて感じたことは、他の公募展にはない多様な出品作品と小さな子どもから中学、高校生など広範な年齢層に鑑賞していただいていることです。平和憲法がないがしろにしようとする今、あらためて平和に対する思いを共感できたのではないかと思います。平美展開催前より出品規定の請求や問い合わせが寄せられ、出品申し込みハガキもダウンロードして利用していただけでした。平美展会期中はホームページで会場風景や出品作品などの画像を紹介して、開催中の様子がわかるよう毎日の更新に努めました。

平美ホームページ
担当者日誌⑩



関西美術家平和会議新入会員紹介 遠田 悦子(油彩画)

若い頃、関西平和美術展で吉田利次氏の炭鉱の絵を見た思い出があります。重い絵で、私には重すぎました。そして50年、昨年再び、ギャラリーバリアで吉田利次さんの絵に会ったのです。人間の絵・働く人・笑顔の子ども・人間とつながる風景に感動したのです。素晴らしい作品に出会うことは大切です。私も5年前よりART Space Largoギャラリーにて素晴らしい作品、素晴らしい作家さんと出会いが広がり、その時間を今はとても大事にしています。そして自分の作品も作っていけることを目標にしています。

平美・秋のスケッチ会
予定
阿波座周辺
11月4日(日)

平美展終了後も出品作品の紹介を続けていく予定です。今後とも、出品者の交流の場にしていただけるように努力いたします。「お問い合わせ」から、ご意見やご参加をお待ちしています。(篠瀬和行)